

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

自己点検・評価委員会

(責任者名)	松岡 博信
(役職名)	委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	情報処理基礎 I ~ IV(数理・DS・AI教育プログラム)の履修状況については、全学部で卒業必修科目としており、期首履修率は100%である。本プログラムの修得状況については、教務委員会(情報教育担当)において単位取得状況を分析している。
学修成果	本プログラムについては、習熟度別にクラス編成がされ、レベルに応じた教育を実施している。プログラムの履修者のうち一部の休退学者を除き、現在99.3%が全科目を履修している。学修成果については、試験、課題、授業アンケート結果や成績の分布状況を確認し、評価・改善につなげる予定である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラム受講者全員に授業アンケートで授業内容、授業進行ペース、予習、復習などを多角的に分析し、学生の理解度を分析し、評価・改善に活用する予定である。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業アンケートの質問項目に他の学生への推奨等を問う内容はなく、また、本プログラムが卒業必修科目であるため、自由記述欄にも本プログラムを推奨する記載はない。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムについては、全学部において卒業必修科目と設定しているため、履修率100%である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラム修了者の多くは2年次以降に、プログラムで学んだ情報収集能力、論理的思考、総合的な課題解決能力、およびプレゼンテーション能力などを生かし、専門教育科目だけでなくインターンシップ、各種実習、地域の課題解決のため行政・企業などとの共同連携活動など学内外で活動をする想定である。 本学ではインターンシップの受け入れ企業に参加学生だけでなく、就職している卒業生についてもアンケートを取っており、卒業生について8割を超える企業が知識・技能が高いと回答があった。このことからも平成26年度から取り組んでいるICT活用能力育成を目的とした入学生へのノートパソコン配付事業および本プログラムの評価が高いことが推察される。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	先に述べた卒業生アンケート調査や毎年学内開催している合同企業説明会の意見交換会のコメントを分析し、本プログラム内容・手法等についても産業界の情勢を踏まえて、教務委員会でカリキュラムの見直し、改善を行う。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムは大学に入学するまでモバイル端末を主としてネット社会と接してきた入学生に、ノートパソコンを一人一台配付し、数理・データサイエンス・AIについて講義や演習を交え、通年で授業を行っている。 数理・データサイエンス・AIがもたらす情報社会の未来や論理的思考やプログラミング能力を演習から学ぶ楽しさを重視している。シラバスには数学用語などを記載することを出来るだけ控え、大学での学びに活用できることを記載し、人文・社会科学系学部生にも興味関心を抱かせるように工夫している。 また、データ管理、著作権などのトラブルなど学生の身近な日常に潜むネット社会での法規制やマナー、モラルに関すること、実社会でのデータを基に統計的な分析や課題解決能力の習得から学ぶことの意義について考えるようにカリキュラムを組んでいる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	学生からはクラスごとに実施している授業アンケートを活用し、授業の「内容」「進め方」「意義」「満足度」に関する複数の項目で確認している。このアンケートで得られた情報を授業担当者にフィードバックして授業改善等の対応を図っている。 教務委員会では試験、課題、授業アンケート結果や成績の分布状況を確認し、また学習指導要領改訂や産業構造の変化など今後必要とされるスキルなど社会情勢などを鑑みて授業内容の改善を行っている。